



オミクロン株の感染拡大により、同窓会も1月17日の理事会までは開会されましたが、その後は中止や延期になっています。1月21日の市民活動団体交流会、2月1日の第3回クラブ代表者会等々……。クラブ活動も中止やZoomでの開催に変更を余儀なくされている所が多いようです。そんな中でも、狭山元気プラザは開館しています。小規模の会合は持てるので、20周年記念事業に向けては着々と準備が進められています。

県でも市でも新規感染者が最多を更新する中、今後はステルスオミクロン株流行かとの報も……。海外での主流検査SGTFで検出できないため、あのステルス戦闘機と同じ「見つからない」ことから命名されたとのことで、すでに主流に置き換わりつつある国も出ているようです。人が集まると3回目接種の話題の今日この頃ですが、いつかはピークアウトするという希望を持って春を待っています。

集いを地区紹介で盛り上げよう！

第43回 理事会報告
1月17日(月)

今回は20周年記念式典の内容が主な議題になりました。荒井委員長から参加予定者の中間報告があり、理事以外の参加申し込みが102人、理事を加えて126人の参加になりました。その後、「20周年を祝う集い」の詳しい進行説明があり、当日の役割分担をしました。

集いは「参加者紹介」から始まります。集いの主役を参加の皆さんと捉え、地区毎に紹介していきます。「〇〇地区からご参加の皆様です」等、司会からご自分の地区を紹介されたら、地区名を書いた模造紙等を掲げ、アピールします。えっ、ご自分の地区が分からない？……大丈夫です！当日地区毎に受けをしますので、そこでご確認ください。えっ、どうやってアピールするの？……そちらも大丈夫！各地区の担当理事さんが考えておいて、当日開会までに教えてくれます。開会直前に来た方は、周りの皆さんに合わせてください。アピール方法はその場でできる簡単なものです。各地区の理事は感染状況を考えて準備します。ご協力を宜しくお願いします。

所沢マンドリンクラブも集いに向けての練習が始まったそうです。岸田代表も、「皆様に楽しんでもらえるコンサートにしたい」と、意欲満々です。また、司会者の打ち合わせや式典リハーサルもこれから少人数で行っていく予定です。当日をお楽しみに！

なお、実施の可否は2月24日の式典記念事業企画委員会で最終決定します。決定次第、Newsで皆様にお知らせします。

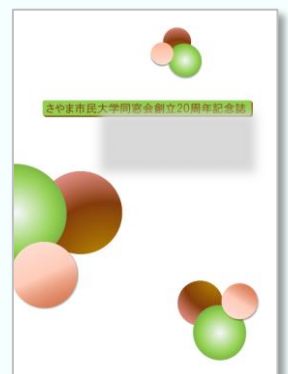


記念誌、出来上がる

20周年記念誌編集部会報告
1月12日(水)

記念誌編集部会も今回が最後になりました。平成28(2016)年の発議から5年以上、平成29(2017)年7月の「記念誌編集委員会」の誕生からも4年半の年月を経て、110ページの冊子が出来上がりました。途中コロナ感染症の流行で完成が予定よりずいぶん遅れてしまいましたが、その分十分に内容を練れたものと思われます。これから印刷所に発注し、20周年を祝う集いに間に合うよう、2月中旬には完成品が届く予定です。冊子の題は秘密です。去年決定した同窓会の愛称が冊子の題になっています。祝う集いの中で発表されますので、お楽しみに！

(記念誌の表紙。冊子の題はぼかしてあります→)



オリーブの講演会は YouTube で配信されます

2月5日(土)に予定されていた「第4回狭山市犯罪被害者・交通被害者支援を考える交流会」はコロナ感染症拡大のため集客での講演会は中止となりましたが、当日1時30分よりライブ配信されます。スマホでも、パソコンでもYouTubeで視聴出来ます。「犯罪被害者支援の会『オリーブ』講演会」で検索してください。なお、2月14日(月)~2月17日(木)に予定されている、市役所エントランスでの展示は予定通り行われます。「犯罪被害者遺族としての支援に携わる思い」「さやま市での活動」「大切な人に贈る最後の一言(24人分の言葉)」などが掲示されます。市役所においての際はぜひお立ち寄りください。

● 『散歩の醍醐味』 尽きない冒険③・・・まだ土に還らない ●

前回、散歩の醍醐味(尽きない冒険①)で、自宅から西側丘陵の麓を大自然と対話しながら、柏原地区のはずれ、奥州道交差点まで散歩した。今回は交差点近くまで車で行き、その先の広瀬地区、水富地区(根岸)を丘陵沿いに歩いた。初めて歩く道であるが、丘陵を目安にすると迷うことはなかった。奥州道信号を横切って直進すると広瀬東の住宅街となり、丘陵の麓は、住宅、アパートが密集していた。雑木林は少なく、コンクリートの壁の急段差となっている箇所が多い。20分ほど行くと、広い信号のある麓の交差点に出た。右側坂上は、武蔵野学院大学、左側は、つつじ野団地、スーパーY AOKOへと続いている。信号を直進して進むと、広瀬3丁目の住宅街となる。今まで歩いてきた広瀬東地区住宅街に比べ、ゆったりとした敷地に古風な建物が多い。

信号のないT字路の坂の右側に広瀬浅間神社という神社があった。鳥居をくぐり、10m程の階段を上ると頂上に富士浅間宮の石碑が祀られていた。1合目から8合目まで石碑が建てられ、富士山に登った気分を少し味わった。頂上のすぐ右側の敷地は、一帯が墓地となっており、説明板によると、狭山市の西武鉄道誘致に偉大な功績を残した清水宗徳という人のお墓があった。初めて耳にする人で、まだまだ狭山を知らない自分に気づき、散歩を重ねる意欲が更に沸いてきた。丁字路に戻り、右折して進み、しばらく歩いてまた右折すると、根岸2丁目の閑静な住宅街に出た。

途中、丘陵中腹の雑木林の中に、1月も中旬が近いのに、まだ葉が落ちていない落葉樹を見つけた。桜の木などは昨年11月には、新しい若い芽が古い葉を押し出し、古い葉は全て落ちている。自然の摂理に抗う風景に思えた。大半の高齢者が切望する不老長寿の状態に見える。見え隠れする人生の終着点へのはかなさ・焦りを克服したかのようだ。しかし、いつまでも生き続ければ、どうなるのであろう。生きづらさが増大し、早く死なせてくださいと懇願するのではないだろうか。落ちない古葉は、まさに懇願状態なのかも知れない。大自然の一部である人間は、どうだろうか。草木を見向きもしなかった若い頃に比べ、草木のありように関心が高まり、自宅の庭で草木を育てている自分に苦笑する。土が呼んでいるのかもしれない。湧き上がってくる大自然との一体感、そして無常感は何ともし難い。しかしながらコロナ禍の中、回を重ねる散歩の中で、「まだまだ土には還らないよ」と生きる術を模索し、万難を排し、生き続けようとするのは、他の生物と同様理屈ではなく本能のなせる業なのかもしれない。



そんなことを考えながら進んで行くと、水富小学校、水富神社、JA入間野水富支店に出た。万歩計は5000歩を越えていたので、駐車した場所まで、引き返すことにした。(松本功さん)